



## イイケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

### 第 631 回 変化を拒むもの～慣性の法則

2015.5.31

『大変』という字は『大きく変わる』と書く。

正に「変わる」ことは大変なことなのだ。

でも「変わる」から「変える」になったら、もっともって大変になる。

「変わる」は自分が関与しないところで、知らぬ間に変わってしまう。

「えっ、いつから変わったの？ 聞いてないよ…」とは、間々ある事である。

でも「変える」となると、自分自身の行動によるしかない。

「変更」「変化」「変革」から「改革」「革新」「革命」「改新」「維新」等々…

言葉は数多(あまた)存在するが、「変える」ことの難しさは、歴史上、不変の頑固さを持つ。

「変える」ことの困難性は、どこにあるのだろうか？

例えばラジコンの車を想像する。

そのラジコンカーに人形を載せて、ラジコンカーを真っ直ぐ高速で走らせる。

そして、急にハンドルを切って、車を右方向にカーブさせるとする。

車は右方向に曲がるが、人形は、それまで向かっていた方向(=真っ直ぐの方向)に進み続けようとして、車から振り落とされる。

これを、「**慣性の法則**」と言う。

つまり、「動いている物体(=人形)は、その方向に向かって動き続けようとする」わけで、下の車を方向転換しても、上の人形は「慣性の法則」に従って、真っ直ぐ行き続けようとすることになる。

人間の心も全く同じ心理「慣性の法則」がはたらいている。

今まで、あることを目指して進んできたが、ある時、「生き方を変えたほうがいい」と気付き、方向転換をしようとする。しかし、気持ちは、今まで目指してきたものを目指し続けようとしてしまう。

頭では、現状を打破する動きをしたいと思いつつ、実際の行動は、現状を維持する動きになってしまう。これは、心が、今まで目指してきたものを目指し続けようとするからで、今まで通り、つまり、現状維持ということが大変でなく、居心地が良いと思ってしまう。

人間の脳は、基本的に変化を嫌う。慣れた、今まで通りであれば、厄介なこともなく安心できると思いつつ、込んでしまう「安易さ」が、変化を嫌う最大の原因かもしれない。

「変わる」と「変える」は違うと思っている。

世の中、あなたが知らぬ間にどんどん変わっているとしたら、

「変える」ことの出来ないあなたは、取り残される。

新しいコトが生まれると同時に、今までのモノは現状維持ではなく、「退化」していることに気が付かなければならない。

モノは減価し命は日々削られて、昨日と全く同じ現状は、今日はない事、明らかな真実だから。

経営も社会も、家庭生活も生き物だ。現状維持することなく、毎日毎日「進化」と「退化」を繰り返している。その変化への対応は人間という生き物の必然と言えるのである。

もしも今、あなたが大変な時期だったら、それは今こそ、あなた自身を大きく変えるチャンスと考えると、少し、気が楽になる。